



# HOME PORT

## 原田裕規：ホーム・ポート

開館時間：10:00-17:00(入場は閉館の30分前まで) | 休館日：月曜日(ただし1月13日は開館)、12月27日(金)–1月1日(水・祝)、1月14日(火)

観覧料：一般1,100円(850円)／大学生800円(600円)／高校生・65歳以上550円(400円)／中学生以下無料 \* ( )内は前売りおよび30名以上の団体料金

主催：広島市現代美術館 | 後援：広島県、広島市教育委員会、中国新聞社、朝日新聞広島総局、毎日新聞広島支局、読売新聞広島総局、中国放送、テレビ新広島、広島テレビ、広島ホームテレビ、広島エフエム放送、尾道エフエム放送 | 助成：公益財団法人小笠原敏晶記念財団 HIROSHIMA 小笠原敏晶記念財団、公益財団法人朝日新聞文化財団

支援：令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 | 機材協力：CG-ARTS

Yuki Harada: Home Port | Hiroshima City Museum of Contemporary Art | November 30 Sat., 2024 – February 9 Sun., 2025 | Hours: 10:00-17:00 (Last admission 16:30)  
Closed: Mondays (except January 13), December 27–January 1 and January 14

2024年11月30日[土]—2025年2月9日[日] | 広島市現代美術館



Hiroshima  
MOCA  
Hiroshima City Museum  
of Contemporary Art

原田裕規(1989-)は、2012年に「ラッセン展」や「心霊写真展」の企画でデビューし、社会の中で広く知られる視覚文化を題材とするプロジェクトからその活動をスタートしました。また近年は、広島や山口からハワイへ渡った移民について調査し、日系アメリカ人の混成文化を題材にした映像作品《シャドーイング》を発表しています。本作品内で登場人物は次のように語ります。

うんと遠くに行こうと出航しても、まるで舵の曲がったボートみたいに同じところに戻ってしまう  
その場所こそが「私自身」だ  
私は決して「私自身」から逃れることはできない

本展タイトルと同名の作品《ホーム・ポート》は、日系人も多く移り住んだ町であり、2023年夏に大火に襲われたマウイ島ラハイナが描かれたラッセンの作品がもとになっています。広島出身であり、ラハイナへの滞在歴もある原田は、「母港」を意味するこの作品の題名を展覧会のタイトルに採用しました。したがって、本展は原田にとっての里帰り展であるともいえるでしょう。

本展では、原田が現時点の集大成とする新展開の平面作品に加えて、これまでに制作された代表的な映像／インスタレーション／パフォーマンス作品、10代の大半を過ごした「広島時代」の初期絵画などを紹介します。多様な展開を見せる彼の制作の歩みが「舵の曲がったボート」のように母港に帰還するさまを、ぜひご覧ください。



Making his art world debut in the role of curator for the “Lassen” and “Shinrei-shashin” exhibitions in 2012, Yuki Harada (b. 1989) launched his career with projects focusing on high-profile examples of visual culture. More recently he conducted research on migrants who left Hiroshima and Yamaguchi for Hawaii, producing the work-on-video *Shadowing*, which looks at the transnational culture of Japanese Americans. A figure in the video says:

*Even when I set out to go as far as can  
I always come back to da same place,  
like one boat with a jammed rudder  
That place be “myself”  
I no can escape from “myself”*

The eponymous work *Home Port* is based on a Christian Riese Lassen depiction of Lahaina on the island of Maui, the town with a large population of Japanese Americans that was destroyed by wildfire in the summer of 2023. A Hiroshima native who has also spent time in Lahaina, Harada adopted the title of this work for that of the exhibition. Thus “Home Port” could be seen as something of a homecoming for the artist.

In addition to rolling out new two-dimensional works as the culmination of where his practice is right now, in “Home Port” Harada will present works ranging from his best-known videos, installations and performances, to early paintings from his years in Hiroshima, where he spent most of his teens. Don't miss this opportunity to witness the diverse paths taken by the artist's practice make their way back to his home port, “like one boat with a jammed rudder.”



1. 《Waiting for》2021年 2. 《One Million Seeings》2019年 3. 《ホーム・ポート》2023年  
4. 左:《シャドーイング(ケンジ)》2022年 | 中:《シャドーイング(トミゴロウ)》2023年 | 右:《シャドーイング(マイコ)》2023年  
表面すべて:《ホーム・ポート》2023年(部分)

#### 原田裕規 | はらだ・ゆうき

アーティスト。1989年山口県生まれ、広島県育ち。2016年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程先端芸術表現専攻修了。とるにたらない視覚文化をモチーフに、テクノロジーやパフォーマンスを用いて、社会や個人の本性(ほんせい)を「風景」や「自画像」のかたちで表現している。2012年に「ラッセン展」の企画でデビューし、議論喚起型のプロジェクトからその活動を開始。2019年以降は断続的にハワイに滞在し、ビジン英語に代表されるトランスナショナルな文化的モチーフに着目している。

#### Yuki Harada

Artist. Born 1989 in Yamaguchi Prefecture, grew up in Hiroshima. In 2016 earned an MFA in Inter Media Art, Tokyo University of the Arts. Harada employs technology and performance in landscapes and self-portraits that express the essence of society and the individual, taking as his motifs insignificant examples of visual culture. His first exhibition was 2012's “Lassen,” thus starting his art career by organizing a project sure to provoke discussion. Residing intermittently in Hawaii since 2019, Harada focuses on cultural motifs of a transnational nature, particularly the phenomenon of pidgin English.

#### 関連イベント

##### アーティスト・トーク

11月30日(土)14:00-15:00  
要展覧会チケット、申し込み不要

##### 対談:「ハワイと瀬戸内の深いつながり」

講師: 木元真琴(日本ハワイ移民資料館館長)、原田裕規  
日時: 12月15日(日)14:00-15:30  
会場: 地下1階ミュージアムスタジオ  
要展覧会チケット(半券可)、申し込み不要

##### 担当学芸員によるギャラリートーク

12月21日(土)、1月18日(土)いずれも15:00-16:00  
要展覧会チケット、申し込み不要

##### アートナビ・ツアー(アートナビゲーターによる展示解説)

毎週土・日・祝・休 | ~1/5 各日12:10、15:10開始(15分程度) | 1/11~ 各日11:45、14:45開始(30分程度)  
(11/30、12/1、対談、ギャラリートーク開催時は除く)  
要展覧会チケット、申し込み不要

##### 同時開催

特別展「ティンティン・ウリア: 共通するものごと」~1月5日(日)  
コレクション展2024-II ~12月8日(日)  
コレクション展2024-III 12月21日(土)~

##### 前売券販売所

広島市現代美術館受付、オンラインショップ「339」、チケットぴあ(Pコード: 687-085)  
\*販売は2024年11月29日(金)まで

##### 県美×現美×ひろ美 相互割引

「原田裕規: ホーム・ポート」会期中に広島県立美術館、ひろしま美術館で開催される特別展チケット(半券可)を受付に提示いただくと、観覧料が100円割引になります。  
\*1枚につき1名限り、他の割引との併用はできません。

##### 展覧会情報

Exhibition website



アクセス Access



〒732-0815 広島市南区比治山公園1-1  
1-1 Hijiyaama-Koen Minami-ku Hiroshima | Tel: 082-264-1121  
[www.hiroshima-moca.jp](http://www.hiroshima-moca.jp)



広島市現代美術館  
Hiroshima City Museum of Contemporary Art